

〔東日本の石油化学コンビナートにおける自家発電などの状況〕

企業名	自家発電の有無	自家発電の能力	計画停電への対応策など	備考
仙 台				
J X仙台	7基	14万5750* _{0.77}		
鹿島地区				
鹿島北共同発電	ボイラー4基(重油、ペトロコックスが2基ずつ)、タービン5基	65万* _{0.77}	地震で自動停止。点検、修理中で、現在はボイラー、タービン各1基が低稼働。復旧時期のめどは立たず。東電からの受電も受けているが、通常時の需要は30万* _{0.77} なので、自家発電のみでも対応可能	三菱化学、鹿島石油、鹿島電解、信越化学、鹿島塩ビモノマーなどに供給
鹿島南共同発電	重油ボイラー2基	14万* _{0.77}	一部のみ稼働。さらに稼働を上げる準備中。燃料の手配次第。再開の時期は不明	旭硝子、J S R、クラレ、三菱ガス化学、A D E K A、三井化学、カネカなどに供給
千葉地区				
京葉エチレン	1基(ガスタービン)	3万7000* _{0.77}	自家発電で賄える。余剰を売電	
極東石油	あり	非公表	設備をすべて稼働させる能力はない	
三井化学	排熱、ガスなど複数種類を稼働	17万* _{0.77}	自家発電で全量賄うことは可能。売電する余力があるか検討中	コンビナート各社に供給
J S R	東電からの全量購入		現状は停電はなく、通常ベースの運転を図りつつある	
丸善石油化学	2基(スチームタービン、ガスタービン1基ずつ)	2万1500* _{0.77} 。スチームが9000* _{0.77} 、ガスが1万2500* _{0.77}	自家発電ですべて賄える	
電気化学工業(丸善石化コンビ)	千葉に2基の火力発電所	非公表	現在は自家発電を動かし、東電からの購入量を減らしている	東洋スチレンに供給
宇部興産(同)	東京電力から購入		千葉工場には自家発電はないので、東電の供給に従うことになる。停電予定の連絡があれば、現在稼働しているプラントを停止することになるだろう	
チッソ(同)	千葉に日立製作所と合弁の自家発電の会社	7万5000* _{0.77}	電力は基本的に自家発電で賄える。電力量の削減よりも自家発電からの安定供給を求められている状態	日本ポリプロ、シーエスター、京葉ポリエチレンに供給
旭硝子(同)	あり	非公表	対応は検討中	
出光興産千葉製油所	6基	8万7100* _{0.77}	設備をすべて稼働させる能力はない	
同千葉工場	2基	9万5000* _{0.77}	設備をすべて稼働させる能力はない	
富士石油	あり	非公表	設備をすべて稼働させる能力はない	
住友化学	あり	非公表	自家発電および東電から受電。全量自家発電で賄うことは可能。余力の有無について検討	コンビナート各社へ供給
川崎地区				
J X川崎	ガスタービン2基	東京ガスとの合弁である川崎天然ガス発電80万* _{0.77}	稼働率引き上げで余剰を東電に売電	
旭化成川崎工場	全量東電からの受電		グループ会社の自家発電設備がないか調査中	
東燃ゼネラル	あり	非公表	稼働率引き上げで余剰を供給	東燃化学に供給
昭和電工	川崎(売電専用)、横浜でペトロコックスを使った火力が2基	川崎は12万4000* _{0.77} 。横浜は非公表	自家発電のフル活用と同時に工場内スチームの有効利用で対応する	
日本ゼオン	あり	非公表	震災前から自家発電増強中で、年内には全量自給可能	
日本触媒	東電から全量受電		コジェネ設備の稼働で節電に対応は可能	
根岸地区				
J X根岸	スチーム発電機ほか	54万8550* _{0.77} 。内訳はスチーム6万8550* _{0.77} 、ガス発電4万9000* _{0.77} 、ガス化複合発電所43万1000* _{0.77}	余剰を東電に売電	